

さくらみ川

第五三号 平成十七年四月一日
熱日高彦神社 社務所
電話 〇二四・六二・〇二四一
<http://hitaka.org> atuhitaka@hitaka.org

「ワッショイ！」
鐘撞堂での胴上げ



御子塚「おらほ右だべ」「つがうんだ」



春季例大祭予定

平成十七年四月六日(水)

祭典 午前八時

神輿渡御 午前九時半 お降り

十時五十分 三島神社

十二時 郷主内

十三時 島田公民館出発

十四時 神社到着

十四時三十分 日高・香取神輿お降り

十五時三十分 鐘撞堂 胴上げ

十六時 御神輿お引込み

神輿担ぎ手募集!

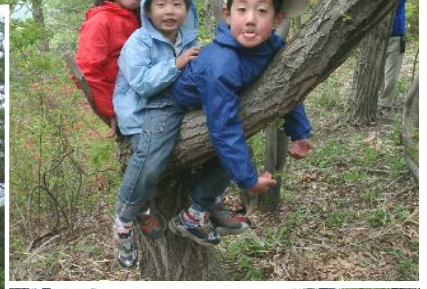
現在、神社総代・神輿世話人が力を合わせ御神輿の担ぎ手を募集しております。中学生から参加いただけます。経験者はもとより、島田の未来を担う人たちにぜひ、積極的に参加いただきたいと思います。

連絡先 各区総代・神輿世話人・社務所

花火奉納者募集

一発三〇〇円で承ります。総代まで。

大森山は角田一！気持ちいいから登ってみさい！！



大森山が角田市で一番高いって知っていましたか。317メートルで四方山より高い。またその姿の美しさ、眺めの良さ、自然の豊かさも角田一だと思います。石川口の「大森会」（名前の由来もこの山から）では長年「環境登山」と称して林道の整備や環境保全を兼ねて登山しています。最近では育成会や万年青会などのグループや、軽登山を楽しむ人なども多く登るようになっていきます。もともと八十八夜には老若男女がこぞって登った山。ゆえに頂上は当神社の境外地です。2年程をかけて再び石の祠をお祀りしました。途中の林は森林組合がきれいに刈払ってくれています。昔登った人も初めての方もどうぞ気軽に登ってみてください。地元の良さと、自然環境の大切さを肌で感じてください。もちろんゴミは持ち帰る、山野草は持ち帰らない、山菜は根こそぎとらないなど、マナーはしっかり守りましょう。名実とも角田一の山になるように。

「夏も近づく八十八夜」

里の大森もお祭

五月二日は子眉嶺神社例祭

こまゆみね

八十八夜は五月二日、境内社子眉嶺（稲荷）神社の例祭です。生命の神様です。人や家畜の産育、作物の豊穰を祈願します。

本来はこの日に「大森山」に登拝したのですね。ちなみに子眉嶺さんはもともと内山の「大森」（現在の石川口河原の南、小斎に近いあたり）にお祀りされていました。昨年より祈願旗の奉納を承っております。



昨年はアマチュアの歌手も参列。賑やかでした。

社頭あれこれ

祭のたびに清めの雪 豊作の兆？

除雪奉仕に感謝

暮れから今春にかけて記録的な大雪が続いた。大晦日から元旦、小正月、祈年祭(二月十七日)と祭典ごとに大雪だ。大晦日の晩にあれほどの雪が降ったのは古老の記憶にも無いと言う。

そんな中、祭典準備や除雪にたくさんの方のご協力をいただいた。祭りごとに降る雪の中を祭典準備から片付けまでこなしていただいた総代の方々。門馬強さんには大晦日の午後十時を過ぎてから「初詣に間に合うように」と除雪いただき、その後も降るたびに駆けつけていただいた。祈年祭前の清掃では出役の方々に屋根から落ち硬くなった雪を砕いていただいた。おかげさまでなんとかそれぞれの祭典を過ごすこと



ができ、参拝の通路を確保することができた。

神社に限らず今年は各所で多くの方が皆のために除雪をされた。感謝を申し上げたい。そして、これだけ降ったのだから、言い伝えどおり今年はずっと大豊作に違いない。

正月行事は滞りなく—遠方からも参詣者

正月三ヶ日の参拝者はさすがに少なかったが、



そのぶん斎火祭(とんど祭)には大勢の人が参詣、厳冬の小正月行事を楽しんだ。年々数を増す奉納燈籠は、口コミで評判が広がっているように、これを見に遠方からも人が来る。寒さの

中ご協力いただいた皆様に感謝あるのみ。

「おひまち」は雪に足をとられながらも、多くのご家庭をまわらせていただいた。昨年の反省から、できるだけ余裕をもって伺うよう工夫したが、おかげで皆さんといろいろなお話ができした。いれていただく温かいお茶が本当においしかった。ご馳走様でした。

年中行事を楽しもう

お花見

お花見はかつての「山遊び」「磯遊び」など、春の日に野外に出かけて飲食した習慣が起源。いわば自然との対話。桜の花の下で、お重やお弁当を広げ、お酒を飲んで宴会をする行事には、日本人の自然への親しみが込められています。



◆◆◆ ご奉納・ご奉仕 ◆◆◆

各区 神社総代各位 歳旦祭・祈年祭神饌

二区 富田 正さん 歳旦祭神饌(海菜)

三区 佐藤 善一さん 米 野菜

横倉 塚目 克子さん 野菜

小斎 黒須 清光さん 猪

船岡 本多 愛子さん 神酒

二区 門馬 強さん 参道・境内除雪

三区 佐藤 勝征さん 境内林整備

一区 斎藤 公一さん 野菜

※前号で只野吉次さんの姓を誤植しました。お詫びし訂正します。

お日高さんの自然⑬

スミレのなかま

春に咲く花でもっとも身近に親しめるのがスミレのなかまであろう。庭先や土手、コンクリートのすき間にもたくましく根を張り、可愛らしい小さい花を咲かせ、人々を魅了する。日本は、スミレ王国ともいわれ昔から歌にも取り入れられてきた。

万葉集には、山部赤人の和歌「春の野に すみれ採みにと来しわれを 野をなつかしみ一夜寝にける」があり、芭蕉は「山路来て 何やらゆかし すみれ草」と詠んでいる。

赤人の歌にでてくるすみれは、茎の立ち上がらないスミレのなかまであり、芭蕉のそれは、茎が立ち上がるタチツボスミレであろうと推測される。

スミレは、まず花の色によって大きく紫色と白色のグループと、黄色と白色(まれ)のグループに分けられる。また、スミレは地上茎がないが、タチツボスミレにはあり

立ち上がる。このように地上茎がある(有茎性)か、地上茎がない(無茎性)かによってもグループ分けをしている。

なお、角田地方に生育するものはすべて紫色か白色を咲かせるものばかりであるが、石巻地方や高山では黄色のスミレのなかまも見られる。



さらに、日本では草(本)ばかりであるが、外国では木(本)もあるといわれている。

和名の由来の定説はないが、一説には、花の形が大工道具の「墨入れ」に似ているからといわれている。

スミレやタチツボスミレ、ノジスミレなど殆どが食用やお茶として利用できるが、ニオイタチツボスミレのように毒性の強いものもあるので注意すべきであろう。

文／小島和夫氏

社 頭 暦

四月 一日 卯月月次祭

六日 春季例大祭・神輿渡御神事

二九日 みどりの日(昭和天皇誕生日)

五月 一日 皐月月次祭

二日 子眉嶺神社例祭 八十八夜

三日 憲法記念日

五日 端午の節句 こどもの日 立夏

六月 一日 水無月月次祭

三〇日 水無月大祓式

編集後記

大晦日の夜中、石段の雪をかきながら時計を見ると零時の祭典まで間が無い。「もうだめだ」と天を仰いだそのとき、下からトラクターの力強いエンジン音がきこえて、本当に救われた思いでした。強さん、本当にありがとうございました▼小正月の雪が止んだ朝、除雪しているとヘリコプターがただ事でない速さで丸森の空へ。後日豪雪の中産婦を救出した記事を読みました。人のために力を尽くす。雪の中、各所で当たり前に為されたであろう人知れない努力を想い、しみじみと感動した冬でした▼一時は七〇センチもあった境内の雪も彼岸あたりからどんどんとけだしました。お祭には間に合いそう。さて今年も平日斎行です。関係者を合わせ勧誘活動を展開しています。たとえ数時間でもかまいません。年に一度、ぜひお神輿を担いで下さい。学生さんの参加も大歓迎!